

## 令和4年度 一般部門

受賞者	活動内容	評価ポイント
野幌森林公園を守る会	<p align="center"><b>【野幌森林公園におけるクマゲラ保全の活動及び生息環境調査】</b></p> <p>野幌森林公園内における天然林伐採等による生態系の破壊を憂慮する市民有志が集い、「野幌森林公園を守る会」が誕生しました。</p> <p>将来にわたりクマゲラが棲むことのできる自然度の高い貴重な平地天然林の保護と森林利用を両立し、一人でも多くの市民に野幌森林公園の自然のすばらしさを知ってもらうことを目的に活動を続けています。</p> <p>活動の柱としてクマゲラ一斉調査を昭和62年から、毎年3月に行っており、これまでに33回実施しています(令和2～4年は新型コロナウイルス感染症対策により中止)。</p> <p>また、クマゲラの生息環境で重要と考えられる巨木の調査を行うなど、クマゲラ生息地保全にも力を入れています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長年にわたり活動を行う中で、活動における課題等を把握しており、今後の取組やその波及効果に期待が持てる。</li> <li>○参加人数も多く、大規模に活動を行っているため、周囲への影響力も大きい。</li> <li>○クマゲラを中心として、他の種を保護することにつながるなど、波及性を有した活動である。</li> <li>○クマゲラの一斉調査においては、長年の調査により有用なデータが蓄積されており、かつ、生物の調査に関して基本的な技術を保有していることが評価できる。</li> </ul>



活動の様子



活動発表



## 令和4年度 一般部門

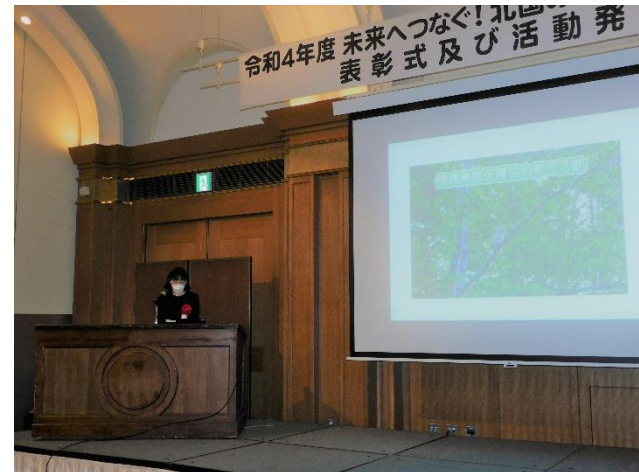
受賞者	活動内容	評価ポイント
山本 友紀	<p style="text-align: center;"><b>【傷病鳥獣保護協力者の活動】</b></p> <p>地域で保護された傷病野生鳥獣を受け入れ、野生復帰させることのみならず、野生復帰後の生存率を高くすることを目的に、適切な飼養管理を行っています。雛で保護された個体は成長し飛翔力がつくまで、怪我をした個体は回復するまで、種の習性や個体ごとの状態を考慮し行っています。</p> <p>この活動の中では、保護個体が自然に近い状態で過ごせるよう、羽ばたくなどの運動を行うための十分なスペースを有する小屋を自宅の庭に設置するなど、個体のQOL (Quality of Life   生活の質) に配慮して行っています。</p> <p>また、この活動を行う中で、よりよい管理方法や治療方法を模索するなど、少しでも多くの個体を野生復帰に導けるよう活動に取り組んでいます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○傷病鳥獣を野生復帰に導く重要な活動である。</li> <li>○行政機関と連携し、行政では十分な体制をとれない取組を、個人で7年以上も担っている。</li> <li>○保護個体用の小屋を自前で用意し、単なる野生復帰ではなく、野生復帰後の生存率を高めるためにリハビリを行っている。</li> <li>○保護を行う中で、野生生物の越冬状況という貴重な知見も得られている。</li> </ul>



活動の様子



活動発表





## 表彰式



↑ 基調講演  
 知床・斜里町・地域プロジェクトマネージャー  
 初海 淳 氏  
 「知床の日」と知床ブランディング  
 ～知床サスティナブルと知床トコさんとともに

## 表彰式 記念写真

